

米づくりのいろは ~中干し編~

中干し前後の水管理

1 中干し前の水管理

- 中干し前は分けつ(茎が増えること)を促すため、水深1~3cm程度の浅水にする。長期間深水にすると、分けつ不足や軟出来、根域の減少につながってしまう。
- 気温の上昇に伴って土中の有機物が発酵し、ガスが発生してイネが根傷みをおこす。定期的に水田内に入って、足元からブクブクと泡が出ていれば水を落として田面を露出させ、田面が乾かない程度に軽く干す(ガス抜き)。葉の黄化や分けつ遅れがある場合は、すでに根痛みが起こっている可能性がある。

ポイント
ガスを抜いて
大切な根を守って!

2 中干し

(1) 中干しの目的

- 無効分けつの発生抑制
- 土中への酸素供給と有害ガスの排出
- 根腐れ防止、根の縦伸長と活性化
- 葉色低下による下位節の伸長抑制
- 床締めで倒伏防止、収穫に備える

品質・食味向上
作業性の向上



©2020 鳥取県農業試験場

中干しの方法

① 開始時期 (茎数を数える時期の目安: 田植え後30~40日頃)

- 下表の茎数が確保できたら遅れずに中干しを始める。

※ただし、標高150m以上の場合は下表の茎数+2~3本を目安とする。

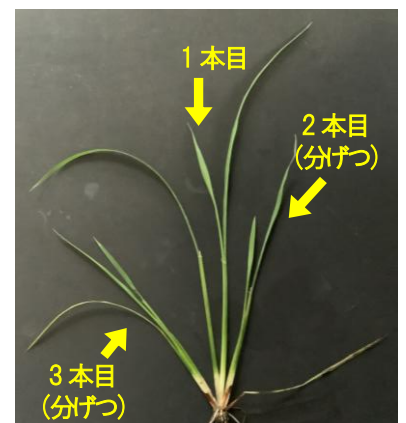
中干し開始の 茎数	株間18cmの場合 (60株/坪)	株間21cmの場合 (50株/坪)	株間24cmの場合 (46株/坪)
ひとめぼれ	22本/株程度	26本/株程度	30本/株程度
コシヒカリ・星空舞	17本/株程度	20本/株程度	23本/株程度
きぬむすめ・日本晴	20本/株程度	23本/株程度	27本/株程度

中干し開始が遅れずに。
しっかり中干しできるかが
良食味となるカギ!

② 中干しの期間

- 中干し期間の目安は土質・株出来・品種・前作によって期間を調節する。

要因	詳細	中干し期間の目安
品種	コシヒカリ	10日程度
	星空舞、ひとめぼれ、きぬむすめ、日本晴	5~7日程度
土質	砂質土・地力のない田	7日程度
	粘土質・遅出来しそうな田	10日程度
株出来	株出来がよく、葉色が濃い	10日程度
	株出来が悪い、葉色が薄い	7日程度
前作	水稻	7日程度
	大豆・野菜跡	10日程度



【茎数のかぞえ方】

葉が2枚以上出ている茎を
1本としてかぞえる。
この写真の場合、茎数は3本

(2) 中干しの際の注意点

- 中干し中は水尻のせき板をはずす。
- 暗渠の栓は抜く。
- 地固めできる程度にしっかり干す。
- 雨が降ったら中干し期間を延長する。
- 降雨等により中干しできなかった場合は、間断かんがいの乾田期間を長めにとり、徐々に地固めしていく。

田面に立って足が軽く沈みスラスラと歩ける程度になったら中干しを終える



【この時期の株の見た目】

- 中干し終了の目安 中干しは出穂1ヶ月前(幼穂形成期)までに終わらせる

品種	田植日	例年の出穂目安	おおまかな中干し終了目安
コシヒカリ	5月10日	7月28日頃	6月25日頃
	5月20日	7月31日頃	6月30日頃
	5月30日	8月5日頃	7月5日頃
きぬむすめ	5月20日	8月13日頃	7月10日頃
	5月30日	8月17日頃	7月15日頃
	6月10日	8月26日頃	7月25日頃

※出穂時期は気象条件によって変動するため、上表はおおまかな目安として使用する。

※ひとめぼれはコシヒカリより5日程度早く、星空舞は5日程度遅い。中生品種はきぬむすめに準ずる

※その他、標高が高いところや冷水地帯、山陰などでは上表より遅くなることに留意する。

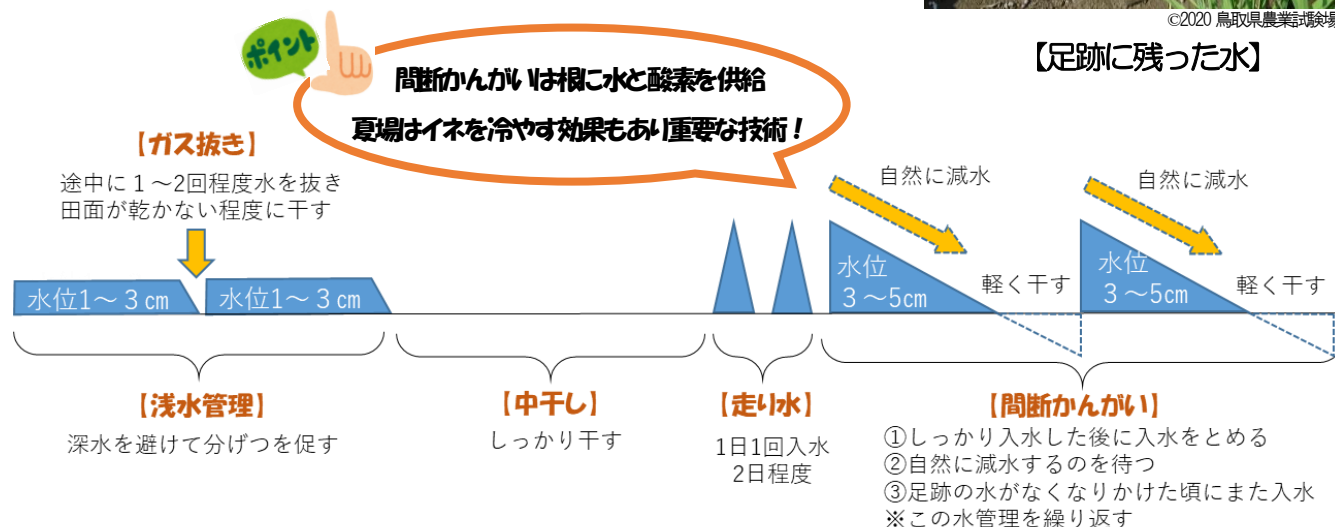
3 中干し終了後

- 中干し終了後はいきなり水をためず、2回程度は水尻のせき板をはずした状態で入水してさっと水を走らせ、イネを水に慣らす(走り水)。
- 走り水の後は間断かんがいに移行する。せき板をつけて田面の高いところがしっかりと沈む程度に入水して水をとめる。その後自然に水が減るのを待ち、田面の足跡に残った水がなくなりかけた頃にまた入水する。間断かんがいはこの管理を繰り返す。



©2020 鳥取県農業試験場

【足跡に残った水】



調整肥の施用

- マルチサポート 2 号は、田植後 30 日頃の中干し前に10aあたり20～40kg(1～2袋)施用することで稲体が硬くなり、病虫害の抵抗力向上や倒伏軽減、受光体制の良化、登熟向上などの効果が見込める。
- 本資材はけい酸や苦土の他、鉄・マンガン・亜鉛などの微量要素を含んだ肥料で、窒素は含まない。

雑草対策

＜除草剤使用上はラベルをよく読み登録内容を厳守しましょう＞

追加除草は
遅れずに判断！

1 中期・後期除草剤について

- 初中期一発除草剤で取りこぼした雑草は、中期・後期除草剤を追加して退治する。
- 中期・後期除草剤での雑草防除効果が見込めるのは実質中干し始めまでなので、田植後 20 日頃までには使用する薬剤を選定しておき、散布適期を逃さないようにする。
- 薬剤は①残っている雑草がヒエか、ヒエ以外か ②雑草の大きさ ③水田の特性や処理後の天候をもとに湛水散布と落水散布どちらが適しているか 以上の 3 点を中心に選定する。

2 中期・後期除草剤の選定

(○:効果あり ×:効果なし)

除草剤名	使用時期	10aあたり 施用量	散布時の水管理	効果のある雑草	
				ノビエ	ヒエ以外
クリンチャー1キロ粒剤 ※ジャンボ剤や液剤あり	田植後7日～/ビエ4葉期	1kg	湛水散布	○	×
	田植後25日～/ビエ5葉期 (上記はどちらも収穫30日前まで)	1.5kg			
ツイゲキ1キロ粒剤	田植後14日～/ビエ4葉期 (収穫60日前まで)	1kg	湛水散布	○	○ ※藻も可
ウィードコア1キロ粒剤	田植後7日～/ビエ4葉期 (収穫60日前まで)	1kg	湛水散布	○	クサネム他
ゲパートジャンボ	田植後14日～/ビエ4葉期 (収穫60日前まで)	10パック(400g)	湛水散布	○	○
ワイドパワー粒剤	田植後20日～/ビエ5葉期 (収穫45日前まで)	3kg	落水散布	○	○
クリンチャーバスME液剤	田植後15日～/ビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1000mL (水70～100L)	落水散布	○	○
アレイルSC	田植後20日～/ビエ5葉期 (収穫45日前まで)	500mL (水 通常散布:50～100L 少量散布:25～50L)	落水散布	○	クサネム他
バサグラン粒剤 ※液剤あり	田植後15日～収穫45日前まで	3～4kg	落水散布	×	○

3 除草剤散布時の水管理

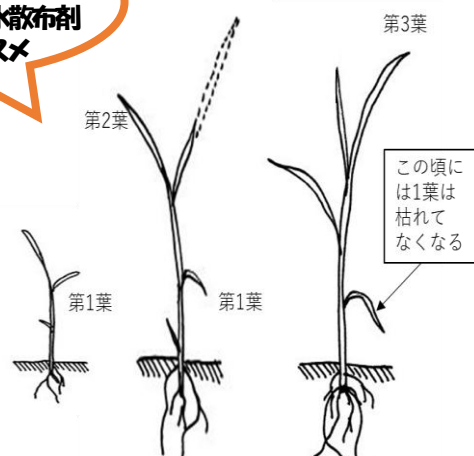
【湛水散布とは】

- 水位5cm程度で薬剤を田面に均一散布する。
- 7日間は止水して落水・かけ流しはしない。

【落水散布とは】

- 足跡に水が残る程度(落水状態)か、水面上に雑草が出る状態(浅水状態)で散布する。
- 散布後3日間(浅水なら5日間)は入水しない。
- バサグランやクリンチャーバスは処理後2日以内に降雨があると十分な効果が見込めない場合がある。
- 落水散布の薬剤は、雑草部分のみのスポット散布が可能。

水もちが良ければ湛水散布剤
水もちが悪ければ落水散布剤
がオススメ



1.53 【ノビエの葉期のかぞえ方】

気をつけたい病害虫と防除

1 いもち病

- いもち病は感染力が強く、多発すると大幅に減収するため、最大の注意が必要な病気。
- 放置した置き苗はいもち病の発生源になる。
補植が終わった苗はすぐに裏返しにするか水田内に埋め込むなどして早急に処分する。
- いもち病予防としてコラトップ粒剤5を散布する。
- 梅雨入りして7～10日後には初発生が確認されることから、いもち病が発生していないかよく観察し、発生が見られた場合には直ちにブラシンなどの緊急防除薬剤を散布する。
- いもち病が発生した場合は直ちに水を入れて湛水状態にし、稲の防御態勢を整える。また、いもち病が多発している場合は、穂肥は中止する。

三朝町では最大の注意が必要。
置き苗は早急に処分すること!!



進展型病斑（要注意）



停滞型病斑



置き苗はいもち病の発生源

©2020 鳥取県農業試験場

<いもち病の予防薬剤>

薬 剤 名	本剤の使用回数	使用 時 期	使 用 量	使用時の水管理
コラトップ粒剤5	2回以内	葉いもち病は初発 10 日前～初発時 (穂いもち病は出穂 30 日前～5 日前まで)	3～4kg/10a	湛水して散布

<いもち病の緊急防除薬剤>

薬 剤 名	本剤の使用回数	使用 時 期	使 用 量	使用方法
ブラシン粉剤 DL	2回以内	収穫7日前まで	3～4kg/10a	散 布

※ 防除後1週間経過しても病斑の進展が止まらないときは、1 週間毎に追加防除する。

緊急防除を行う場合は薬剤の選定について指導機関にご相談ください。

2 紋枯病

- 紋枯病は多発すると品質・食味の低下を引き起こす。
- 7月中旬頃から発病しはじめ、8月上旬にかけて横に広がリ、その後茎を上方向に向かって進展していく。
- 幼穂形成期～穂ばらみ期にはイネの株元をよく観察し、2割以上の株で紋枯れ病が発生している場合はリンバー等の薬剤を散布する。



株元の紋枯病の病斑

©2020 鳥取県農業試験場

薬 剤 名	本剤の使用回数	使用 時 期	使 用 量	使用時の水管理
リンバー粒剤	2回以内	収穫30日前まで	3～4kg/10a	湛水して散布

次回は7月4日(土)午後 1 時 30 分の予定ですので、ぜひご参加ください